

# ③令和3年度島田洞砂防堰堤工事における安全対策について



坂本土木 (株) 令和3年度島田洞砂防堰堤工事

全体工期 自 令和3年 6月19日 ~ 至 令和4年 1月21日

実工期 自 令和3年 8月25日 ~ 至 令和4年 1月21日

やまぐち こうじ

現場代理人 ○山口 幸治

監理技術者 山口 幸治



【キーワード：接触事故防止対策、土石流対策、コロナ対策】

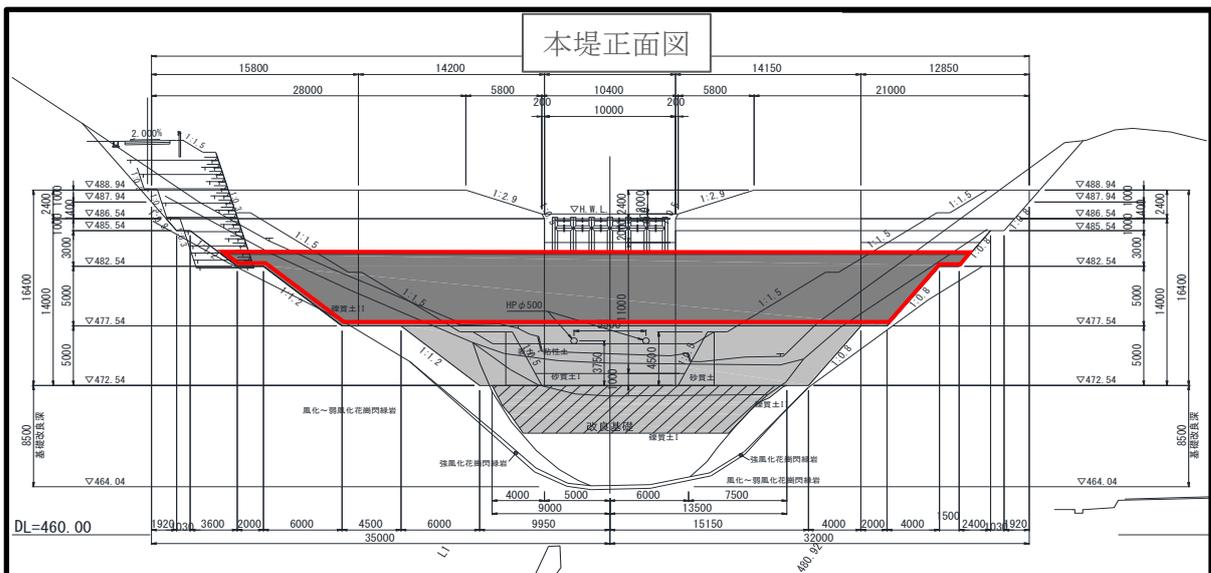
## 1. はじめに

本工事は飛騨市神岡町夕陽ヶ丘地先において、寺ナギ、島田洞、栃洞の各谷で発生が予想される土石流から地域の暮らしと安全を守り土石流危険渓流から発生土砂の流出を防ぐため砂防堰堤の整備を行っております。

本工事は、その3つの谷のうち、島田洞において整備される砂防堰堤の本体工を部分施工する工事です。

本稿では、この工事において実施した安全に関する対策について報告します。

## 2. 工事概要：コンクリート堰堤本体工 1式・仮設工 1式、付帯工 1式



### 3. 現場に入場する進入路での安全対策について

#### 3.1 課題

- ・本工事における現場進入路は 一般車も利用する市道第一夕陽丘線と大型車両のすれ違いが困難な島田洞管理用道路(幅員3.0~4.0m)を通過して入場を行うため、市道での一般車、歩行者との接触事故防止、島田洞管理用道路内での工事車両間の接触事故防止が課題となった。

#### 3.2 実施した対策

- ・事前に周辺地域へ工事案内を回覧し、また、生コンクリート工場へ出向いて生コン車の現場入場台数制限や待機場所、現場付近での走行速度制限などの打合せを行い、工場の朝礼で運転手への周知をしていただいた。
- ・市道第一夕陽丘線には交通誘導員の配置、「工事車両制限速度20km」、寺ナギ・島田洞管理用道路には現場出入口から施工場所までの路肩に「路肩注意」の注意看板、コーンの設置を行った。



#### 3.3 効果

- ・生コン工場での事前打合せ事項の工事車両の待機場所、入場台数、現場内及び付近では20km制限を現場のルールとして、施工者、協力業者全員に周知し守ることにより、市道や管理用道路での接触事故防止につながり余裕を持って安全に作業を行うことができた。また、市道ではあるが工事車両の制限速度を20km制限とし、徐行を行うことで一般車、歩行者への影響もなく工事現場への進入ができた。

## 4. 土石流に対する安全対策について

### 4.1 課題

- ・本工事の施工箇所、島田洞は飛騨市ハザードマップより土砂災害特別警戒区域に指定されている。土砂災害は大雨などによる異常気象時に発生する確率が高いため、現場作業時の気象情報収集からいち早く危険を察知し、作業箇所から安全に避難ができるかが課題になった。

### 4.2 実施した対策

- ・現場に設置している気象観測装置ハザード・アイ情報から雨量が警戒基準及び中止基準のほか時間雨量15mmを超えると職員、各職長の携帯へメール送信される様にした。
- ・施工箇所の島田洞堰堤より上流にワイヤー式土石流センサーを設置。
- ・安全教育時は、土石流に対する避難訓練の実施、現場での第1、第2避難場所及び近隣の飛騨市指定避難場所の確認と周知を行った。



### 4.3 効果

- ・工事期間中は土石流の発生は無かった。避難訓練や定期点検、動作確認で作動させたのみであったが、想定している土石流の到達時間に対して、第一避難場所までの避難時間の測定確認、結果の検証、改善を行うことで、現場作業員の土石流に対する危険意識を高めることができた。また、ハザードアイによる気象情報を現場作業員全員に周知し共有できたことで、危険な場所で作業をしていることを再認識させることができた。

## 5. コロナ予防対策

### 5.1 課題

- ・本工事は、全国的に新型コロナウイルス感染者数が拡大している最中での開始となりました。岐阜県内においても同様に感染者数が増加しており、現場作業では残存型枠組立・修景材設置時に2人作業が多く”密”状態になるため、新型コロナウイルス感染症に対する予防対策が課題になった。

### 5.2 実施した対策

- ・現場に入場する前に手、指の消毒、マスクの着用、関係する全ての人に非接触型体温計で体温を測定、KYの署名欄に体温を記入し体調を確認。
- ・ソーシャルディスタンスを保った朝礼、車両、重機の除菌、手洗い、うがいの徹底。
- ・現場事務所内では、空気清浄機、面談テーブルの亚克力製の間仕切の設置、相向かいの机の間に飛沫防止シートの設置。
- ・本社での月一品質保安会議や週末工程会議ではZOOMを使ったリモート会議の開催。



### 5.3 効果

- ・本工事現場では、新型コロナウイルス感染症になる人は幸い無かった。  
実施した対策を日々継続的に行うことで、自然に習慣づいてきたように思われる。全国的にも感染者数が減少していますが、収束するまで油断せず引き続き対策を行います。

## 6. おわりに

- ・以上のような安全対策を講じた結果、無事に現場を終えることができました。最後になりますが、ご協力を頂いた、発注者、協力会社、地域の皆様に感謝申し上げます。